医療費助成にかかる情報連携機能の

API 連携バッチ処理について

v1.3

改訂履歴

バージョン	改訂日	改訂内容
1.0	2024/9/13	初版作成
1.1	2024/10/30	下記改訂を実施。（改訂内容毎に改訂箇所を列挙） ➢ PMH への連携方式である差分履歴連携に関する説明 ✧ 2. API 連携バッチの利用方法 ➢ 複数制度のファイルを PMH へ連携する場合の対応方法 ✧ 2.1 環境設定（PMH_Relay.exe.config） ✧ 2.2.3 サービス追加手順 - コマンド実行 ➢ サービス実行時に権限エラーが発生する場合の対処 ✧ 2. API 連携バッチの利用方法 ✧ 2.3 サービスの実行アカウント変更 ➢ 参考情報の章を追加および実行ログ ✧ 3. 参考情報 ✧ 3.1 実行ログの出力について
1.2	2025/07/01	➢ 2.4、2.5 の設定が任意である旨を追記 ➢ 4 よくある問い合わせについての章を追加
1.3	2025/08/18	下記改訂を実施。（改訂内容毎に改訂箇所を列挙） ➢ 新規追加した設定及び削除機能に関する説明 ✧ 2. API 連携バッチの利用方法 ✧ 2.1 環境設定（PMH_Relay.exe.config） ✧ 4.2 退避ファイルの削除について（機能改修に伴う回答内容の修正あり）

目次

1.　API 連携バッチ処理について 4

2.　API 連携バッチの利用方法 5

2.1.　環境設定（PMH_Relay.exe.config） 6

2.2.　サービス追加手順 9

2.3.　サービスの実行アカウント変更 13

2.4.　イベントログメール設定（任意） 15

2.5.　サーバ再起動設定手順（任意） 22

3.　参考情報 26

3.1.　実行ログの出力について 26

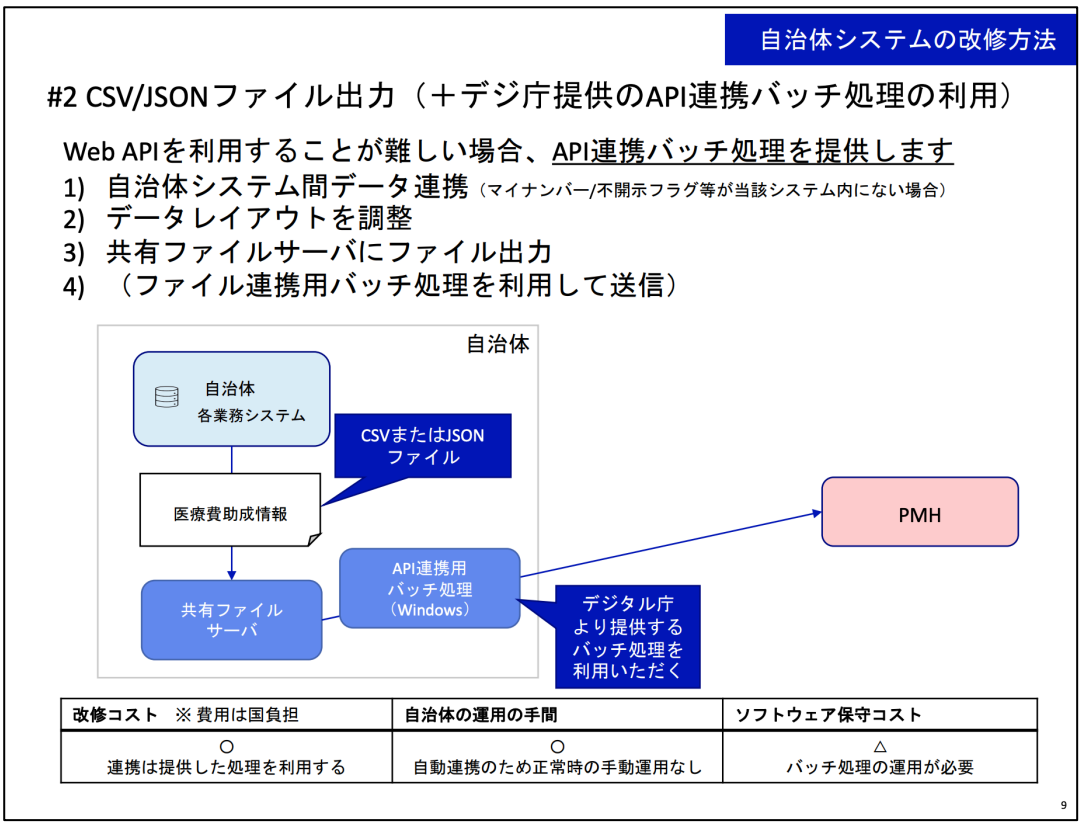
4.　よくある問い合わせについて 27

4.1.　連携時に HttpRequestException のエラーが発生する 27

4.2.　退避ファイルの削除について 28

1. API 連携バッチ処理について

自治体側のシステムにて、PMH が提供する情報登録の WebAPI の利用が難しい場合は、デジタル庁が提供する「API 連携バッチ」を利用することにより、PMH へデータ連携を実現する。
下図のように、PMH へ連携する CSV または JSON 形式のファイルを所定の場所(環境設定にて別途定義)に配置することにより、「API 連携バッチ」がそのファイルを検知し、PMH へ API 連携を実行する仕組みを提供する。
本資料では「API 連携バッチ」を利用する上で、自治体システム側が準備すべき事を次項から説明する。



出典：令和６年度 PMH (医療費助成)先行実施事業 自治体公募の概要説明

2. API 連携バッチの利用方法

自治体システム側では、デジタル庁が提供する「API 連携バッチ」を下記手順に従って設定・適用して頂く。

※「API 連携バッチ」の設定・適用は、C ドライブ配下にモジュールを配置するよう記載しているが、利用環境に応じて適宜読み替えて頂く。
※「API 連携バッチ」は、連携方式(全件連携/差分履歴連携)と環境(検証環境/本番環境)に関係なく同一のモジュールを提供することとなった。このため、環境設定を編集することで、どの連携方式・環境に送信するかを切り替え可能である。（環境設定編集後はサービスの再起動が必要）

■ 連携用バッチが上手く動作しない場合の注意点

- 「API 連携バッチ」は、「.Net Framework」のバージョンが 4.8 で動作するため、そのバージョンを満たしていない場合はアップデートした上でご利用頂く。（アップデート後に再起動が必要）

- 「API 連携バッチ」は、サービスとして実行される想定だが、サービスの実行アカウントがネットワーク通信に必要な権限を持っていないがためにエラー終了する場合がある。その際は、2.3 の手順を参考にして実行アカウントの変更を行う。

2.1. 環境設定（PMH_Relay.exe.config）

プログラムフォルダ （PMH_Relay¥bin¥x64¥Release¥)配下の
PMH_Relay.exe.config にある以下の各値を稼働環境に合わせて設定する。
環境設定編集後、設定をサービスに適用するにはサービスの再起動が必要となる。

■ PMH_Relay.exe.config　アプリケーション構成ファイル

No	Key	説明	設定値
1	MonitoringTimer	出力されるファイルの監視間隔（ミリ秒）　最大 15 桁 デフォルトは 10 分毎に監視予定	600,000
2	PMHFilePath	ＰＭＨ連携ファイルパス 送信に成功・失敗したファイルはこの下に格納される（成功: PROCEED フォルダ配下、失敗: ERROR フォルダ配下） ※絶対パスで一つのフォルダを指定する	C:¥opt¥PMH_RELAY
3	PostRegistration TimeSpan	タイムアウト設定（分） ※医療費助成対象者情報登録 API を実行する際のタイムアウト値 ※タイムアウト値を超える場合は本バッチ処理をエラー終了する	300
4	PostRegistration TasksBaseURL	医療費助成対象者情報登録ＡＰＩ URL ※初期設定は LGWAN 経由でのテストを行う際の URL。 ※本番環境への接続、あるいは事業者環境(インターネット環境)からのテスト時は URL を変更すること	【本番環境】 https://****.jp 【検証環境】 LGWAN 環境からのテスト時 https://****.jp 事業者環境からのテスト時 https://stg.pmh.go.jp
5	PostRegistration FileType	医療費助成対象者情報登録 API で連携するファイル種別(JSON/CSV)を指定。	下記のいずれかを設定する “1”: JSON “2”: CSV
6	PostRegistration TasksName	医療費助成対象者情報登録 API 処理名 ※イベントログに出力する処理名称	医療費助成対象者情報登録
7	ProxyAuthType	プロキシサーバ認証方法 ※プロキシサーバ経由でご利用される場合は No7~12 の設定を行う	下記のいずれかを設定する “1”: 認証なし “2”: Basic 認証 “3”: NTLM 認証
8	ProxyAddress	PMH の API を実行する際に経由するプロキシサーバアドレス	※デフォルト空。プロキシサーバ経由でご利用される場合は設定する

9	ProxyPort	プロキシサーバのポート	※デフォルト空。プロキシサーバ経由でご利用される場合は設定する
10	ProxyUsername	プロキシサーバのユーザ名	※プロキシサーバ経由でご利用される場合は設定する
11	ProxyPassword	プロキシサーバのパスワード	※プロキシサーバ経由でご利用される場合は設定する
12	ProxyDomain	ドメイン名	※プロキシサーバ経由でご利用される場合は設定する
13	PostRegistrationTasksType	医療費助成対象者情報登録ＡＰＩ連携方式	下記のいずれかを設定する “1”: 全件連携 “2”: 差分連携 “3”: 差分リセット連携
14	AllowMultipleFilePerFolder	単一フォルダから複数のファイルのアップロードを許可するか フォルダ内に複数ファイルが存在する場合、false が設定されている際には、エラーとなり処理が終了します。true と設定した場合、フォルダ内にある複数ファイルをファイル名の辞書順に送付します。 (※C#の StringComparer.InvariantCulture を使用してソートを実施。)	true もしくは false を設定する。(初期値:false)
15	ProceedFileRetentionDays	アップロード成功ファイル保持期間 PROCEED フォルダ配下にある、アップロード成功ファイルの保持期間を設定します。 処理日から設定値分の日数を遡った日付よりも後にアップロードされたファイルを保持し、それ以前のファイルを削除します。 例 1)処理日が 2025/8/15、設定値が 7 の場合、8/8 以前にアップロードされたファイルが削除対象になり、8/9 以降にアップロードされたファイルが保持対象となります。 例 2)処理日が 2025/8/15、設定値が 0 の場合、8/15 以前にアップロードされたファイルが削除対象となり、当日アップロード分も削除されます。	0 以上の整数値(初期値:9999)
16	ErrorFileRetentionDays	アップロード失敗ファイル保持期間 ERROR フォルダ配下にある、アップロード失敗ファイルの保持期間を設定します。	0 以上の整数値(初期値:9999)

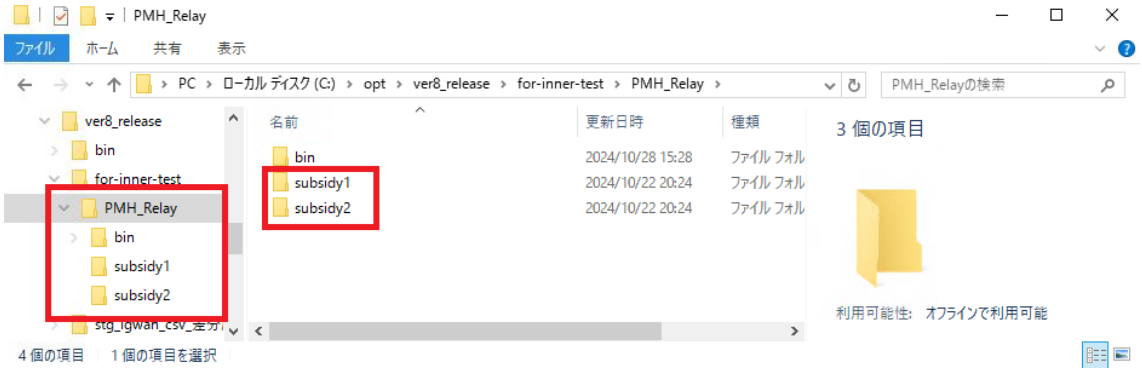
		設定値ごとの挙動は「ProceedFileRetentionDays」と同一になります。	

※No14「AllowMultipleFilePerFolder」を true にする場合でも、負荷を減らすため、全件連携の場合はフォルダ内に公費ごとの最新ファイルのみ格納してください。

※No2「PMHFilePath」のフォルダ配下に制度毎のフォルダを作成する。各制度のフォルダ配下には、その制度に応じた連携ファイル(CSV または JSON)を格納することにより、バッチ処理にてその連携ファイルをインプットにして PMH へ連携される（この設定にてバッチ処理を実現するには、2.2 のサービス追加時にトークンと制度毎のフォルダを紐づけて登録する必要がある）

※「PMHFilePath」の設定値を変更した場合は、「PMHFilePath」のフォルダ配下に同様な構成のフォルダを作成すること（バッチ処理では自動的に作成されない）

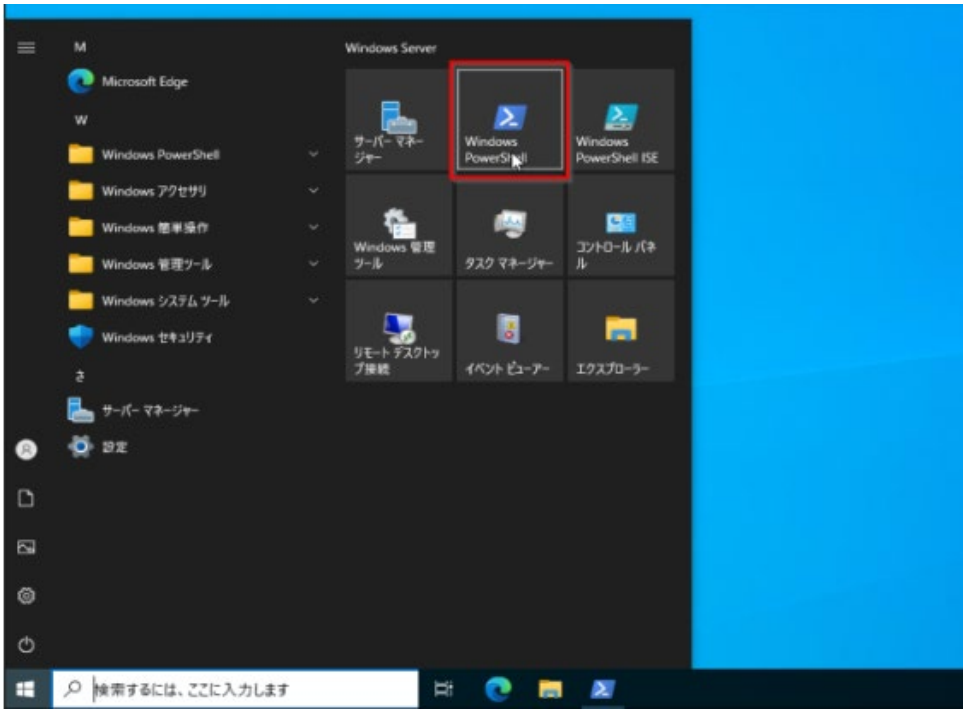
例：「PMHFilePath」に"C:¥opt¥ver8_release¥for-inner-test¥PMH_Relay"を設定し、制度のフォルダ「subsidy2」を作成。「subsidy2」のフォルダには JSON の連携ファイルを格納。



2.2. サービス追加手順

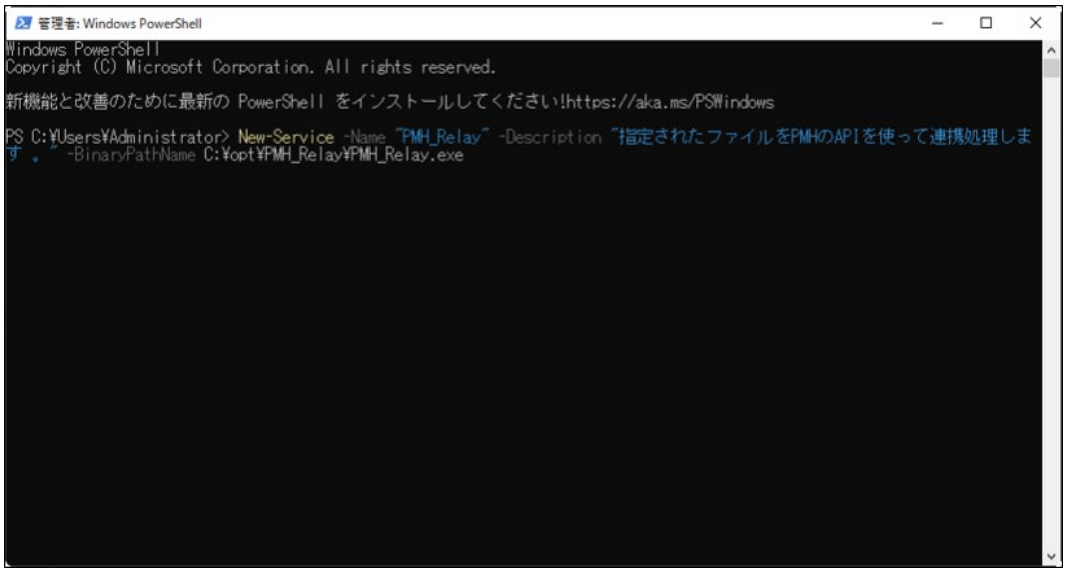
1. プログラムをサーバ上の「C:¥opt」直下にフォルダ(PMH_Relay)を配置する。

2. Windows PowerShell を起動する。



3. 以下のコマンドを実行する 。

New-Service -Name "PMH_Relay" -Description "指定されたファイルを PMH の API を使って連携処理します 。" -BinaryPathName "C:¥opt¥PMH_Relay¥bin¥x64¥Release¥PMH_Relay.exe TokenName1|FolderName1 TokenName2|FolderName2"

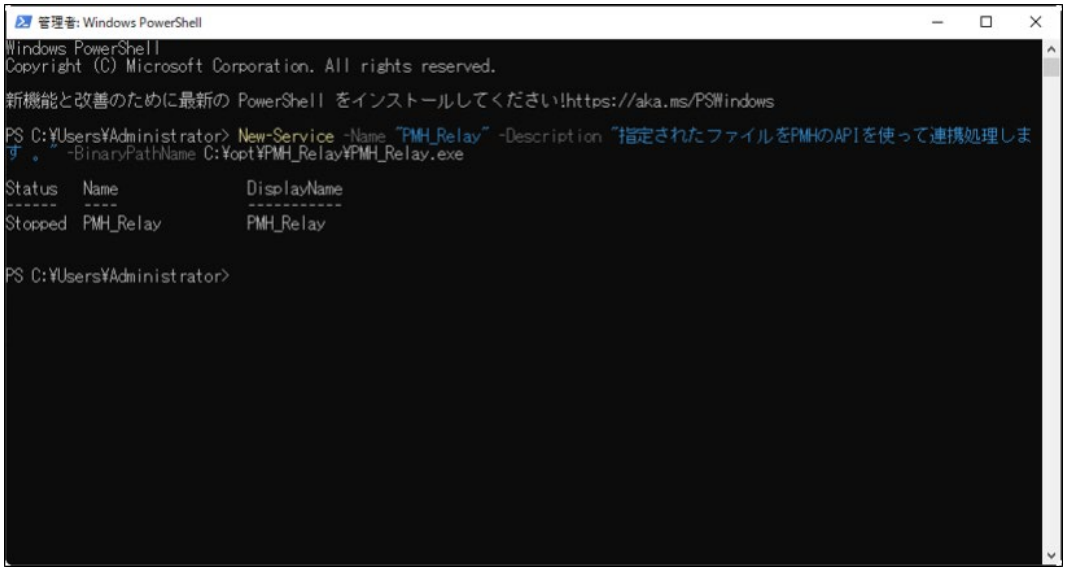


上記の黄色でマーキングした箇所は、PMH_Relay.exe の実行時のパラメータとなる（この例は 2 制度分のデータを連携する場合を想定）。このパラメータには制度毎のトークンと連携ファイルを格納するフォルダ名を{トークン文字列}|{制度フォルダ名}の形式で指定する必要がある。

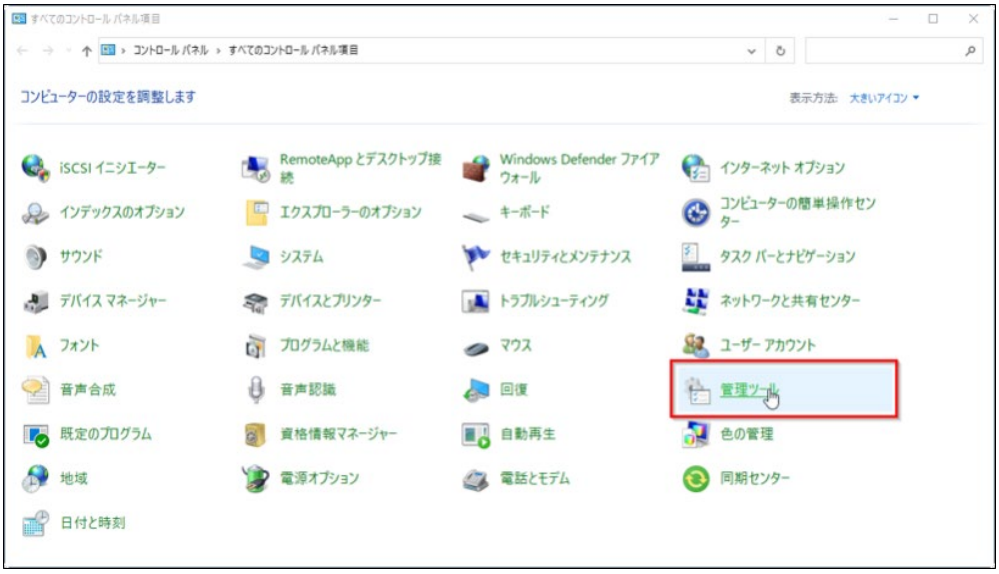
例：2 つの制度の連携をそれぞれ subsidy1 と subsidy2 のフォルダ配下に連携ファイルを格納する構成。

"C:¥opt¥PMH_Relay¥bin¥x64¥Release¥PMH_Relay.exe TOKEN1|subsidy1 TOKEN2|Posubsidy2"

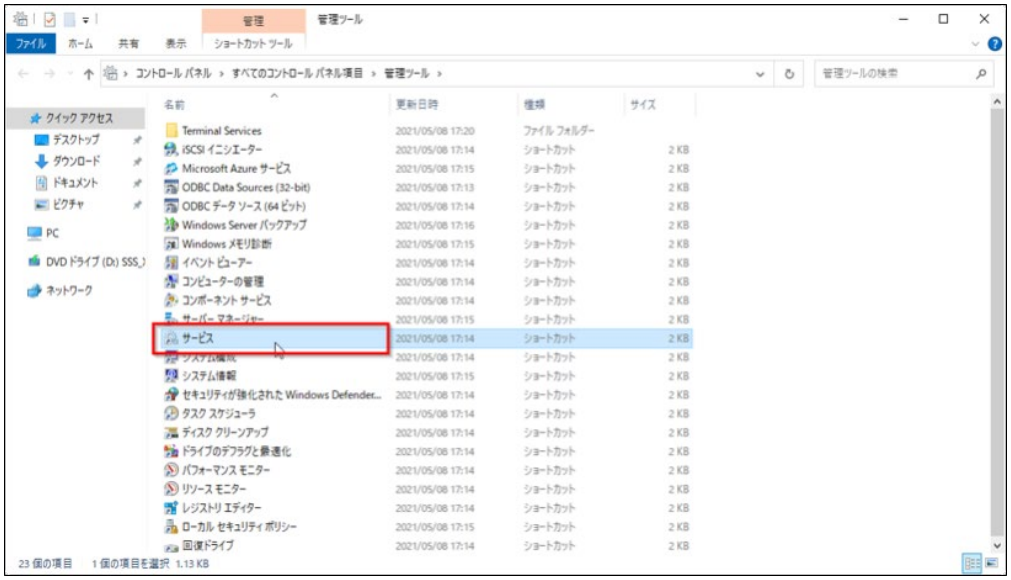
4. コマンド実行後、以下のように「PMH_Relay」サービスの情報が表示されることを確認する。



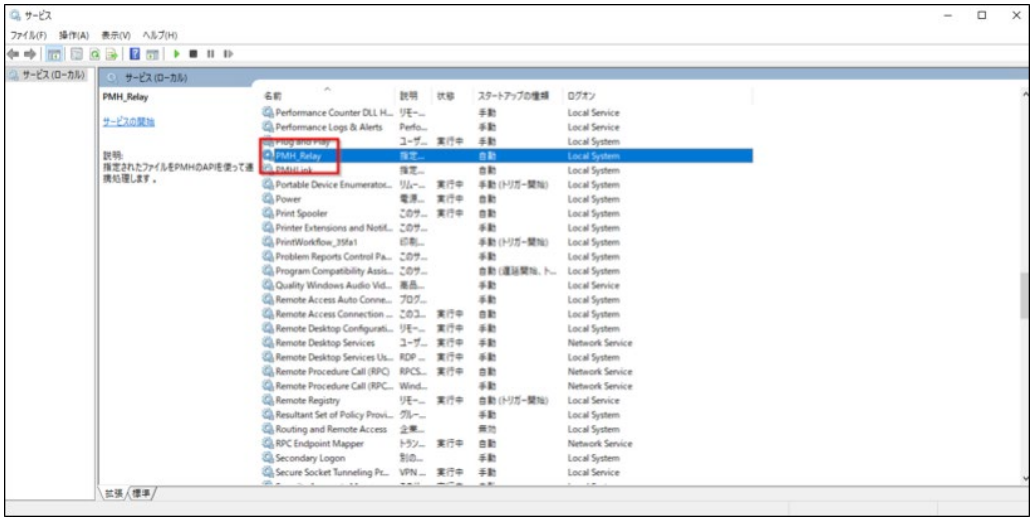
5.「管理ツール」を起動する。



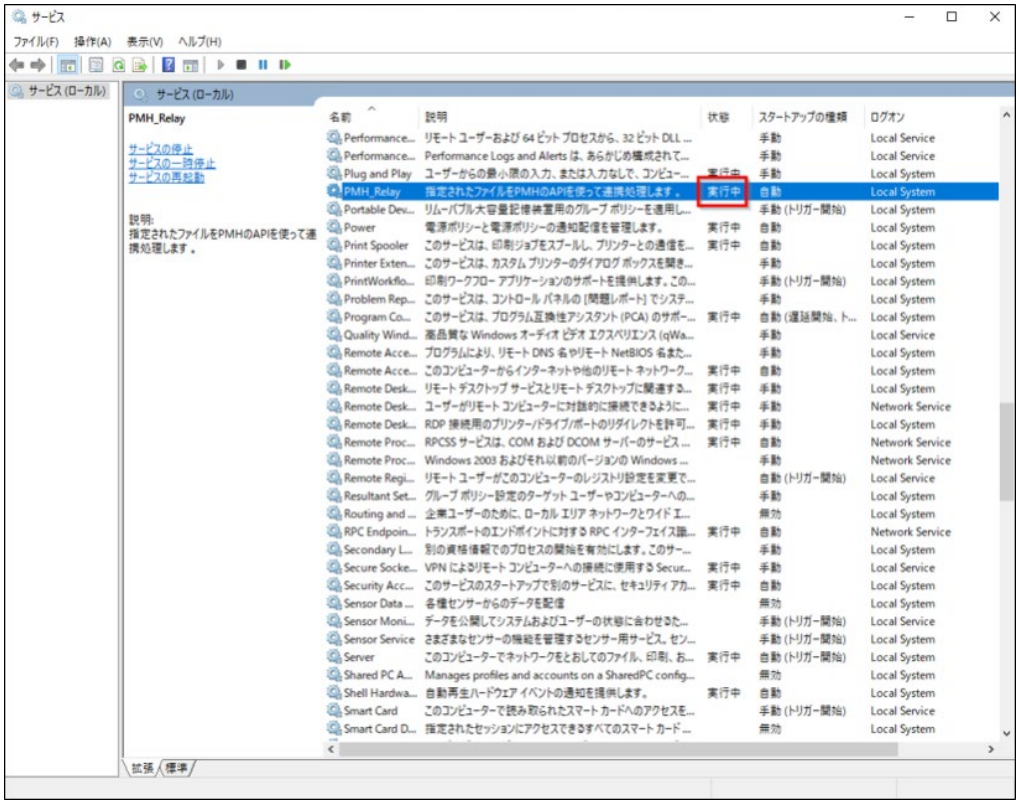
6.「サービス」を起動する。



7. 「PMH_Relay」が追加されていることを確認する。



8. OS 再起動後、「PMH_Relay」サービスの状態が「実行中」となっていることを確認する。

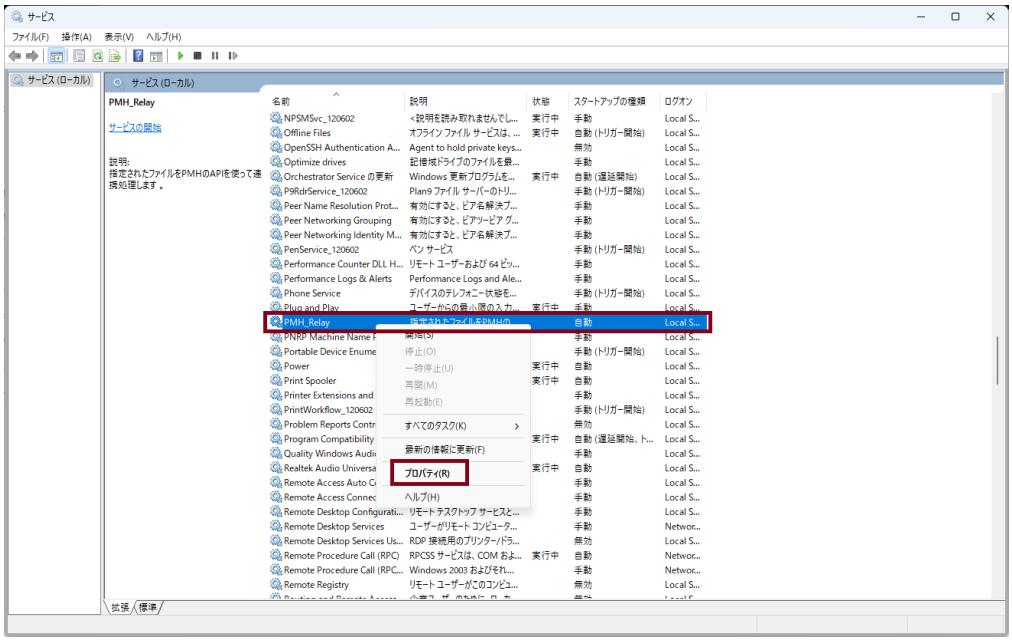


2.3. サービスの実行アカウント変更

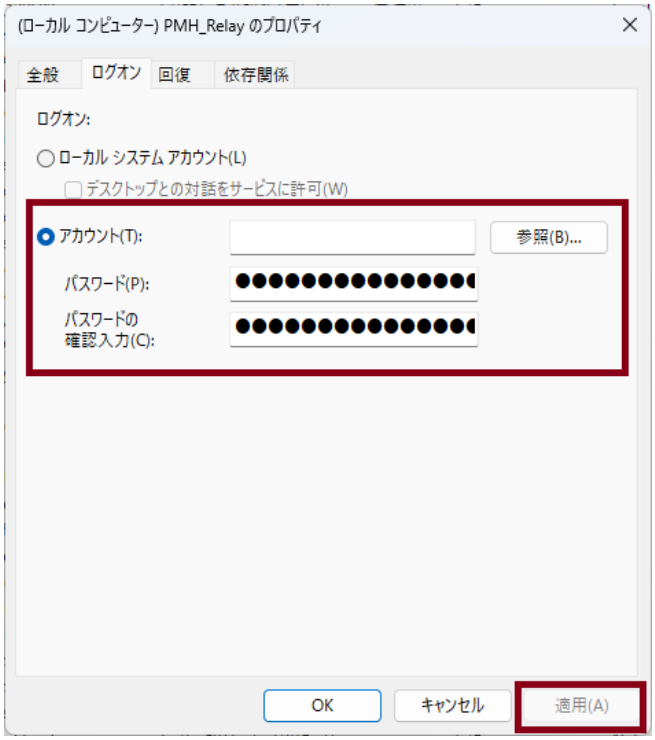
サービスの実行アカウントがネットワーク通信に必要な権限を持っていないがために、エラー終了する場合がある。その際は、以下の手順によりサービスの実行アカウントを変更する。

1. Windows の「サービス」を管理者として実行する。

2. 表示されるサービス一覧から「PMH_Relay」を探し、右クリックし「プロパティ」をクリックする。



3. 表示されるウィンドウの上部タブ「ログオン」から、「ローカル システム アカウント」以外（ドメインユーザ等を想定）を選択し、「適用」をクリックする。



2.4. イベントログメール設定（任意）

※API 連携バッチ自体のイベントログをメール送信する際に利用します。
個人番号系のネットワークから、LGWAN 系のメールに送信する場合、FW に SMTP の通信許可設定も必要となります。
※本設定を実施しなくても、PMH 連携時の処理結果メールは、連携ユーザのメールアドレス宛に送信されます。

1. 「SendMail.ps1」にイベントログメールに関する設定を行う。設定値は環境に合わせて変更を行うこと。（API 連携バッチ自体の設定は、2.3 までの手順で完了となる）

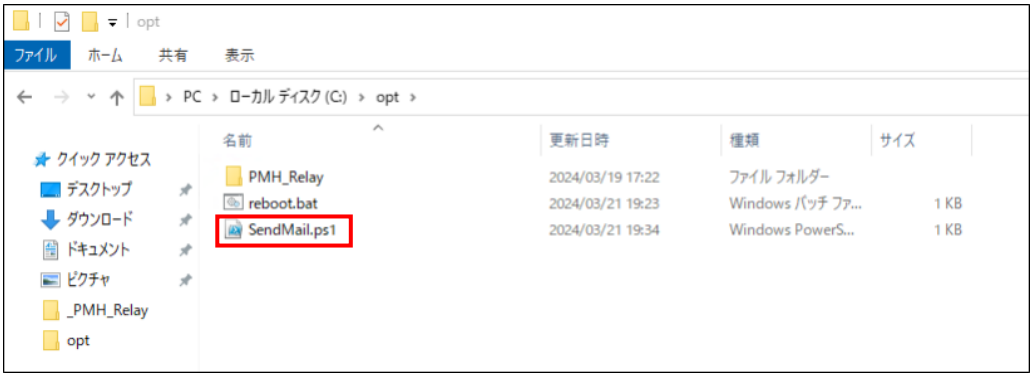
※「SendMail.ps1」のイベントログ取得、メール本文設定部分を抜粋：変更不要

```
#*******************************************************
# イベントログ取得 #
*******************************************************
$event = (Get-EventLog -LogName Application -Before (Get-Date) -Newest 1 -Source
PMH_Relay)

# *******************************************************
# メール本文作成
# *******************************************************
$instanceid = "イベント ID:"+$event.InstanceId.ToString()
$entrytype = "レベル:"+$event.EntryType.ToString()
$message = "メッセージ:"+$event.Message.ToString()
$souce = "ソース:"+$event.Source.ToString()
$timegenerated = "日時:"+$event.TimeGenerated.ToString()
$result= $instanceid+"`n"+$entrytype+"`n"+$message+"`n"+$souce+"`n"+$timegenerated
```

※「SendMail.ps1」のメール送信先の設定、メール送信部分を抜粋：設定値を環境に合わせて適宜変更する（マーキング箇所が設定対象）

```
#*********************************************************************
# メール送信先の設定
# *********************************************************************
$sc = New-Object Net.Mail.SmtpClient("SMTP サーバーアドレス", “ポート番号”)
$From1 = "送信元メールアドレス"
$To1 = "送信先メールアドレス"
# 送信先を増やす場合は、以下のコメントを外し、メールアドレス部分を修正すること（3 か所以上に送信する場合は、
$From3 と$To3 等と追加すること）
# $From2 = "送信元メールアドレス"
# $To2 = "送信先メールアドレス"

# *********************************************************************
# メール送信
# *********************************************************************
$Subject = "PMH 連携通知"
$Mail1=New-Object Net.Mail.MailMessage($From1,$To1,$Subject,$result)
$sc.Send($Mail1)
# 送信先を増やす場合は、以下のコメントを外すこと（3 か所以上に送信する場合は、$Mail3 と
$sc.Send($Mail3) 等と追加すること）。
# $Mail2=New-Object Net.Mail.MailMessage($From2,$To2,$Subject,$result)
# $sc.Send($Mail2)
```

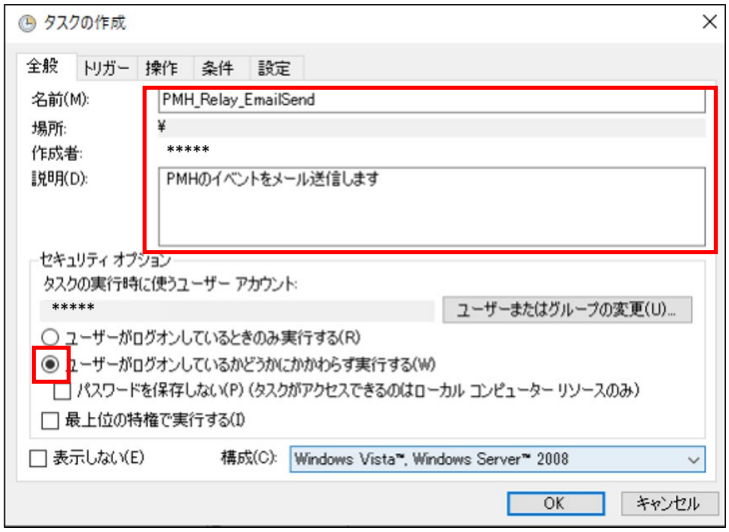
2. Windows PowerShell をサーバ上の「C:¥opt」以下に配置する 。



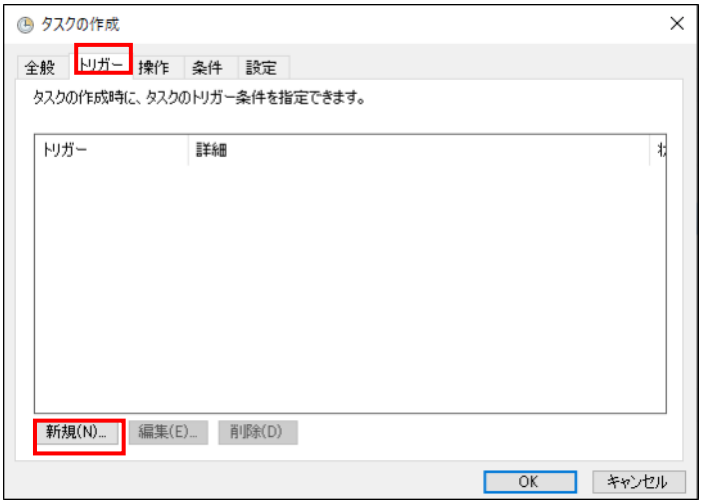
3. タスクスケジューラの「全般」タブを以下のように設定する。

名前：PMH_Relay_EmailSend

説明：PMH のイベントをメール送信します



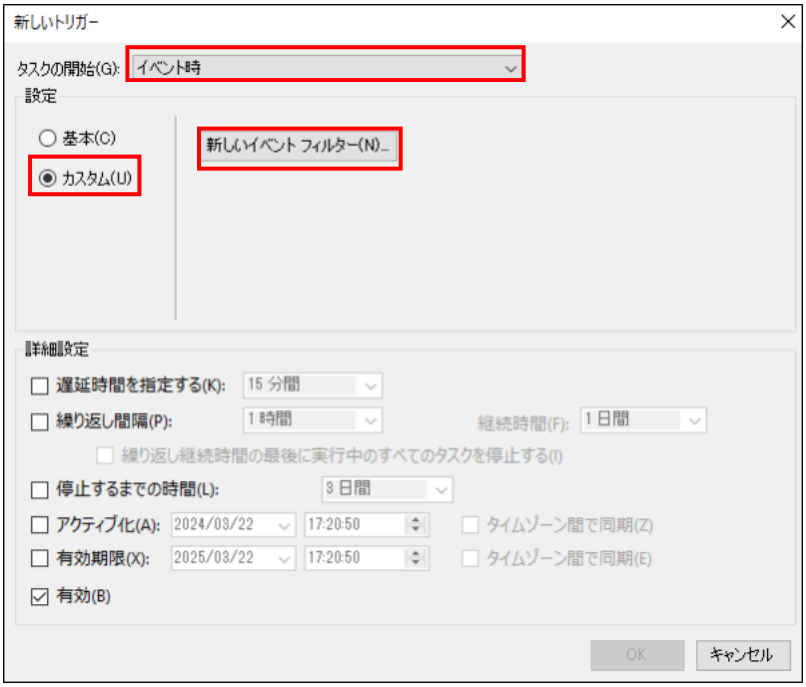
4. 「トリガー」タブの「新規」ボタンを押下する。



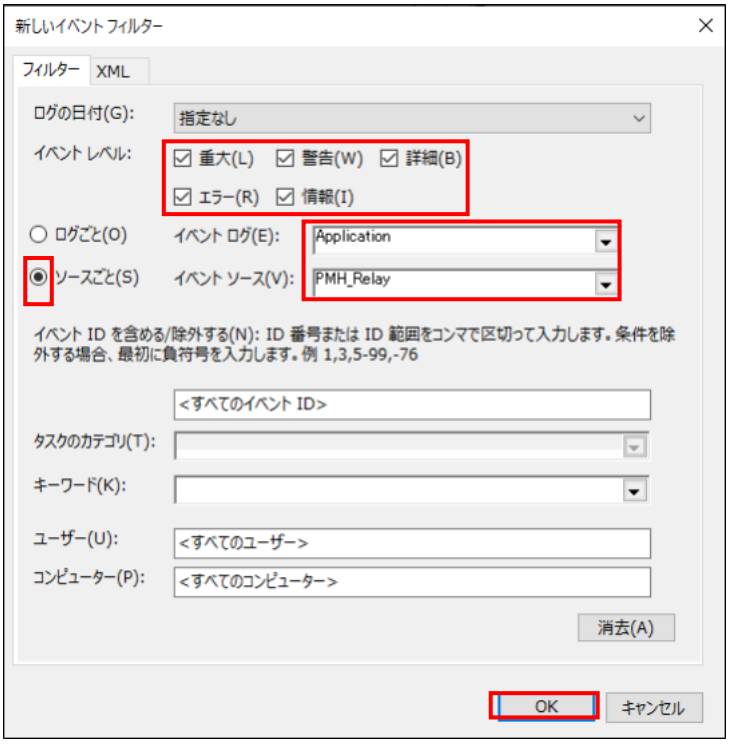
5. 以下のようにトリガーを設定後、「新しいイベントフィルター」を押下する。

タスクの開始：イベント時

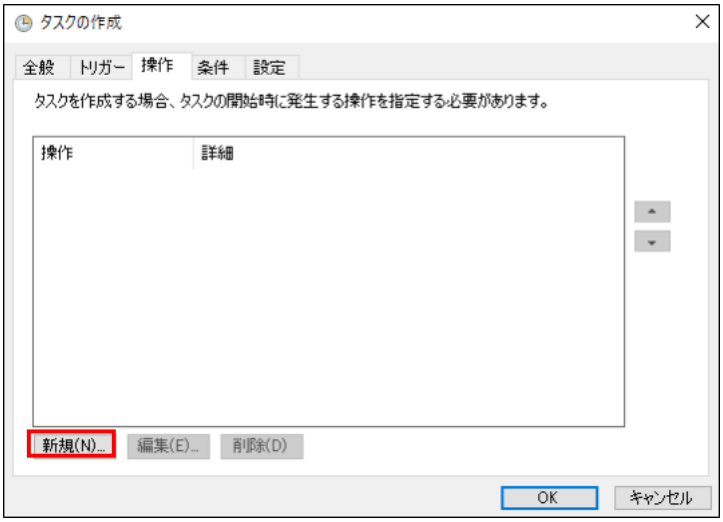
設定：カスタム



6.　イベントフィルターを以下のように設定し、OK を押下する。



7.　「操作」タブの「新規」ボタンを押下する。

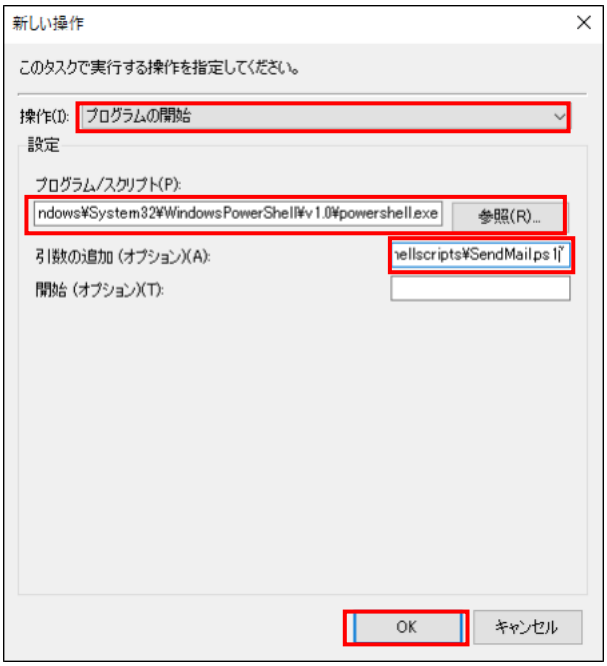


8. 「新しい操作」を以下のように設定し、「OK」を押下する。

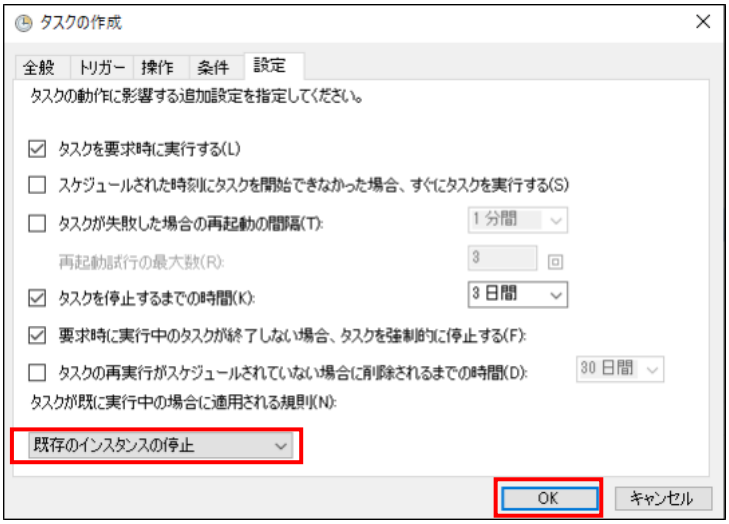
プログラム/スクリプト：

C:¥Windows¥System32¥WindowsPowerShell¥v1.0¥powershell.exe

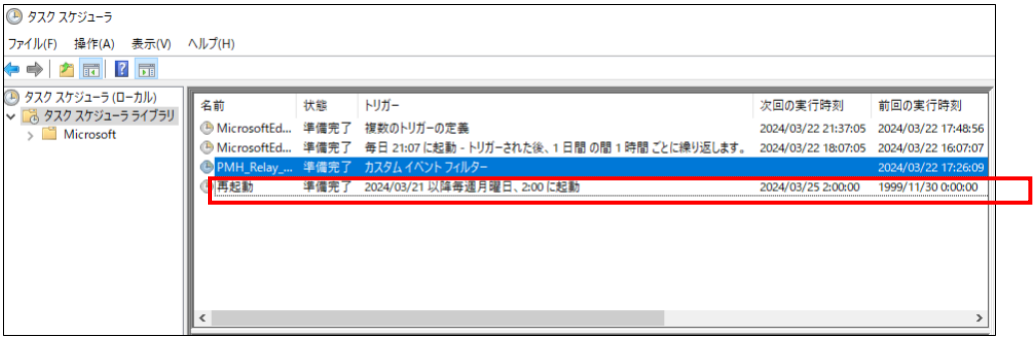
引数の追加：-Command "C:¥opt¥SendMail.ps1"



9. 「設定」タブを以下のように設定し、「OK」を押下する。



10. タスクスケジューラに追加されていることを確認する。



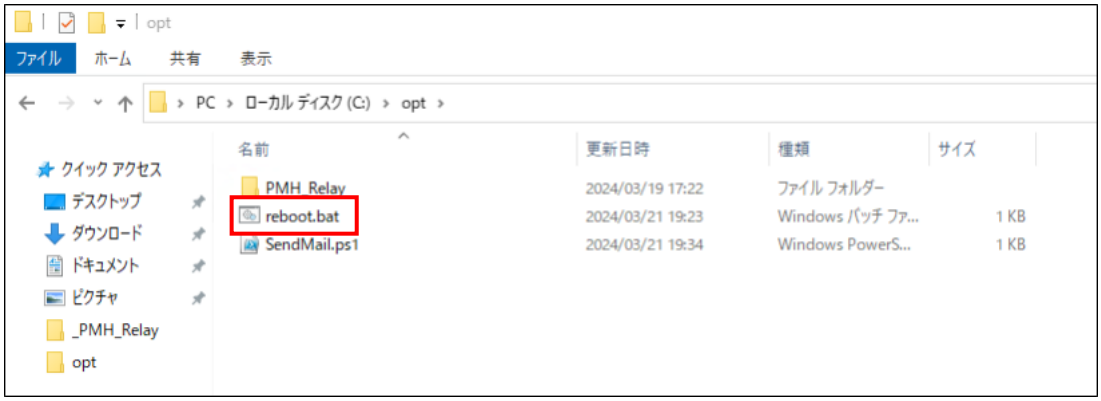
2.5. サーバ再起動設定手順（任意）

定常的なサーバ再起動が必要な場合は下記の手順に則り、サービス設定を行う。
（API 連携バッチ自体の設定は、2.3 までの手順で完了となる）

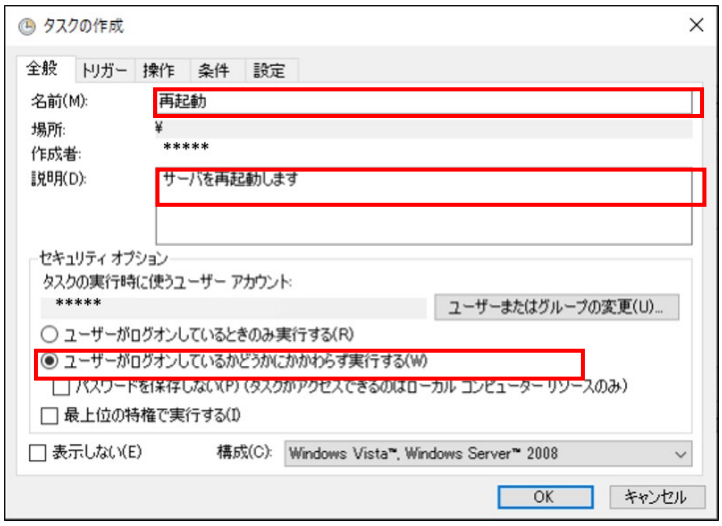
1. 「reboot.bat」に以下を記述する。

```
net stop "PMH_Relay"
shutdown /r /t 30
```

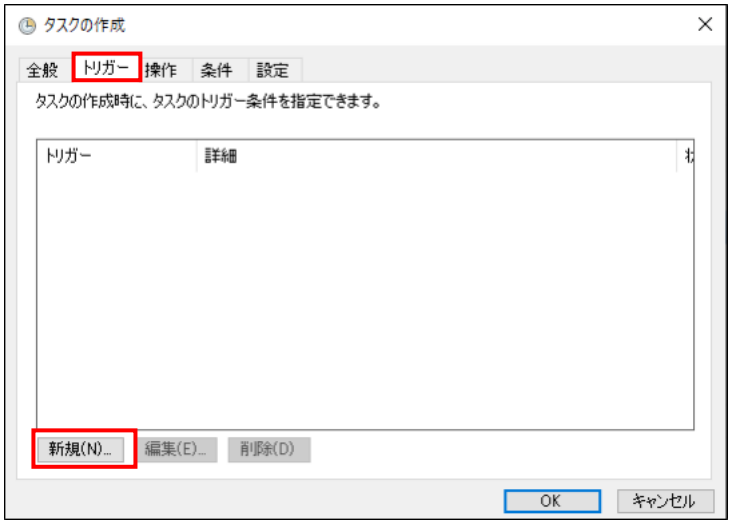
2. 「reboot.bat」をサーバ上の「C:¥opt」以下に配置する。



3. タスクスケジューラの「全般」タブを以下のように設定する。

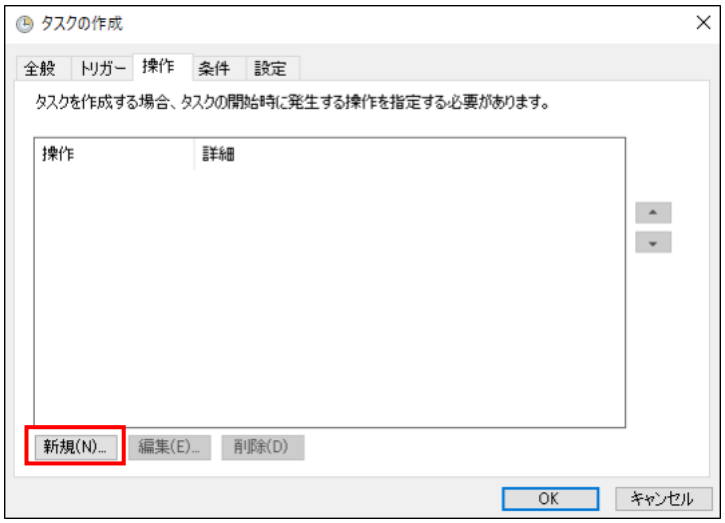


4. 「トリガー」タブの「新規」ボタンを押下する。



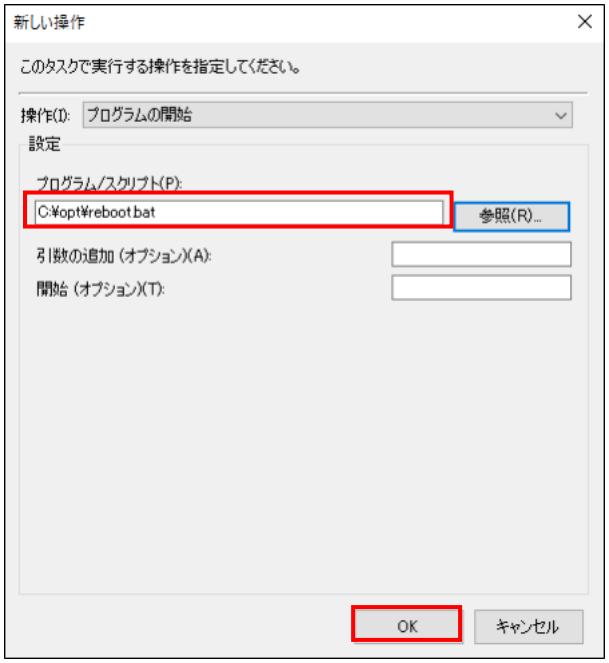
5. 以下のようにトリガーを設定後、「OK」を押下する。

6. 「操作」タブの「新規」ボタンを押下する。

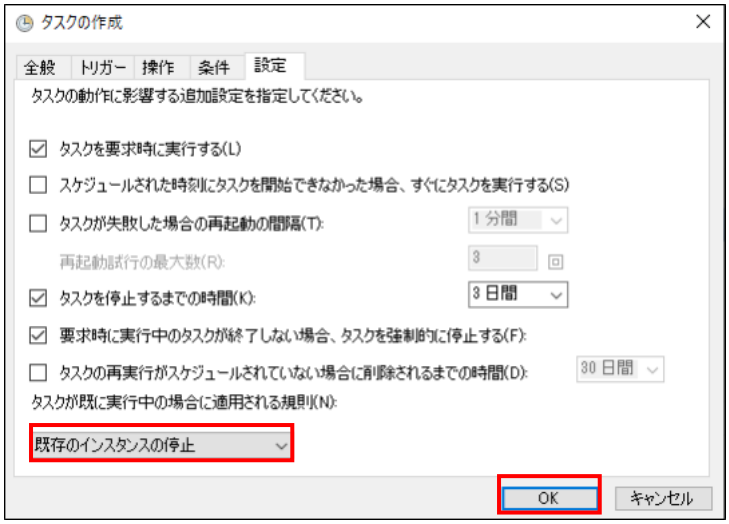


7. 「新しい操作」を以下のように設定し、「OK」を押下する。

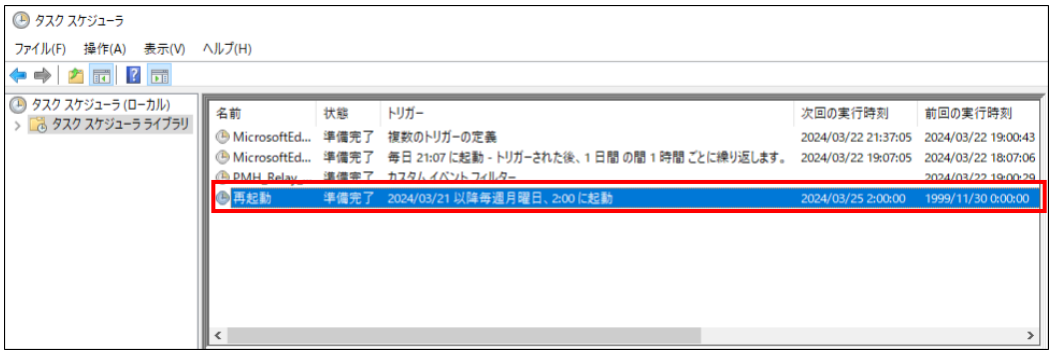
プログラム/スクリプト：C:¥opt¥reboot.bat



8. 「設定」タブを以下のように設定し、「OK」を押下する。



9. タスクスケジューラに追加されていることを確認する。



3. 参考情報

API 連携バッチにおける参考情報を記載する。

3.1. 実行ログの出力について

プログラムフォルダ　(PMH_Relay¥bin¥x64¥Release¥)配下の log.txt に API 連携バッチの実行ログを出力する。
実行ログからは下記の情報が得られる。

・PMH 側 API への送信処理開始/終了
・正常終了時には、PMH の API が返却する処理通番を出力
・エラー終了時には、そのエラー内容を出力
※PMH 側 API のエラー時は、API から受け取ったレスポンスを実行ログに出力するのみであるため、エラー内容の詳細は PMH から通知されるメールを参照すること

■実行ログサンプル
２つの制度(subsidy1, subsidy2)を対象に実行した例。

```
2024-10-22 18:37:26 - サービス開始
2024-10-22 18:37:26 - 監視対象: 2 フォルダ(subsidy1, subsidy2)
2024-10-22 18:37:26 - 送信先 URL:
http://pmhstg.kpn1.asp.lgwan.jp/medicalSubsidy/api/v1/csv/differentialHistoryRegistrationTasks
2024-10-22 18:37:26 - 送信処理開始: subsidy1
2024-10-22 18:37:27 - 送信対象ファイル: C:¥opt¥PMH_RELAY¥subsidy1¥subsidy1_csv1.csv
2024-10-22 18:37:27 - ＰＭＨ連携に失敗しました。エラーコード: E4010003, メッセージ: 認証に失敗しました。
2024-10-22 18:37:27 - 送信対象フォルダから退避: ERROR¥subsidy1
2024-10-22 18:37:28 - 送信処理終了: subsidy1
2024-10-22 18:37:28 - 送信処理開始: subsidy2
2024-10-22 18:37:28 - 送信対象ファイル: C:¥opt¥PMH_RELAY¥subsidy2¥subsidy2_csv1.csv
2024-10-22 18:37:28 - 処理通番: S0020241022000000000000
2024-10-22 18:37:28 - 送信対象フォルダから退避: PROCEED¥subsidy2
2024-10-22 18:37:28 - 送信対象ファイル: C:¥opt¥PMH_RELAY¥subsidy2¥subsidy2_csv2.csv
2024-10-22 18:37:28 - 処理通番: S0020241022000000000000
2024-10-22 18:37:28 - 送信対象フォルダから退避: PROCEED¥subsidy2
2024-10-22 18:37:28 - 送信処理終了: subsidy2
```

4. よくある問い合わせについて

4.1. 連携時に HttpRequestException のエラーが発生する

【質問】

「HttpRequestException が発生しました: この要求の送信中にエラーが発生しました。」というエラーが発生して、PMH へファイルを連携できません。

【回答】

API 連携バッチを利用してファイルを送信した際に、上記エラーが発生する場合、下記の 2 点をご確認ください。

- サービスの実行アカウントがネットワーク通信に必要な権限を持っていないがために、エラー終了している可能性があります。
  「2.3 サービスの実行アカウント変更」を参考に、実行ユーザの変更を試してください。
  例えば、手動でのファイルアップロードには成功しているのであれば、当該作業を行った際にパソコンにログインしていたユーザアカウントを設定してみていただく等。

- 自治体環境から PMH にアクセスする場合（※1）、証明書「APCAR2-Root.cer（※2）」のインストールが必要となりますが、証明書のインストール先は「信頼されたルート証明機関」を選ぶ必要があります。
  「証明書ストア」の選択において、初期値「証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する」のままインストールしていると、「信頼されたルート証明機関」にインストールされず、上記エラーが発生してしまうことがあります。
  （※1）事業者の社内環境からテストを実施する際は、当該証明書のインストールは不要となります。
  （※2）証明書「APCAR2-Root.cer」は、今後切り替えを予定しております。
  詳細は別途配布させていただいております「PMH 接続資料」を参照ください。

4.2. 退避ファイルの削除について

【質問】

API 連携バッチの連携成功時に「PROCEED」にファイルが退避される仕様のようですが、ディスク容量を圧迫してしまいます。
退避されたファイルを API 連携バッチのパラメータ設定等で削除することは可能ですか。

【回答】

機能改修に伴い、退避ファイルを保持する期間を設定できるようになりました。

PMH_Relay.exe.config
「ProceedFileRetentionDays（アップロード成功ファイル保持期間）」
「ErrorFileRetentionDays（アップロード失敗ファイル保持期間）」
の値をそれぞれ編集してください。
※P. 7 、P.8 参照

初期値は、削除しない設定（9999 日保持）となっていますので、運用やディスク容量に応じた設定に変更ください。